

子どもたちのいのちと健康を守れ



放射能対策求め本会議質問・緊急申し入れ

放射線の測定、給食サンプル調査、測定器の貸し出しなど実現

福島原発の爆発事故による放射能汚染は深刻です。東電も国も情報を隠し、「ただちに健康への影響はない」と、国民をだまし続けました。多くの国民、とりわけ小さな子どもを持つお母さんたちは、次々に真相が明らかになるのを目の当たりにして、子どもを守るために必死です。保護者たちが区議会に「請願」を提出したのもその思いからです。

党区議団の本会議質問や数度にわたる区長への緊急申し入れ、区民の運動によって、放射能・放射線の測定、講演会の開催、給食のサンプリング調査、牛乳の検査、測定器の貸出、除染基準の設定などが実現しました。

引き続き、子どもたちのいのちと健康を守るため、みなさんと一緒に放射能対策の充実に取り組んでいきます。



党議員団で測定器を購入しました。一緒に放射能を測りませんか？測定をご希望の方はご一報ください。

ヒブ・小児用肺炎球菌・子宮頸がん予防ワクチン接種の継続を

ヒブなど3種類のワクチン接種は、年度末までの臨時措置で実施されたものです。党区議団は、区議会として国に継続を求める意見書の提出を提案。全会一致で議決し、国に送りました。本会議で区長に対し、国に継続を要求すること、国が継続しない場合は、区で全額助成するよう求めました。

厚生労働省は、ヒブ・小児用肺炎球菌・子宮頸がんワクチンの公費接種を来年度も継続することを決めました。



「子ども・子育て新システム」に対する3つの請願
紹介議員は日本共産党の4名のみ。他会派が継続に
社会保障推進協議会や公立保育園OBの保育士さんが中心になって「子ども・子育て新システムに反対し意見書提出を求める請願」が3本提出されました。
保育士さんは趣旨説明の中で、「新システムが導入されたら、現場では、子ども達の登園時間がバラバラになって、保育園で遊びを通じて子ども同士で学び合うことができなくなるのでは」、「面積基準が緩和されたら、とりわけ0歳児は、はいはいの子、やっと立ち上がりができる子、よちよち歩きの子など様々なので、十分はいはいができないなどの影響がある」と現場の声を紹介しました。
面積基準については、党区議団が2回に渡って代表質問で取り上げ、区長は「規制緩和は行わない」と答弁していましたが、請願審議でも、このことが再確認されました。
請願は多数で継続になりました。

困ったときはすぐ相談を。4名の区議がご相談に応じます



大滝 実

区民文教常任委員 / まちづくり・子育て等対策委員 / 防災・エレベーター等対策委員 / 副幹事長



沖島 えみ子

総務常任副委員長 / まちづくり・子育て等対策委員



風見 利男

建設常任委員 / 行財政等対策副委員長 / 議会運営委員 / 幹事長



熊田 ちづ子

保健福祉常任委員長 / 交通・環境等対策委員 / 防災・エレベーター等対策委員 / 議員団長



日本共産党 港区議員団ニュース

2012年1月号
発行：日本共産党港区議員団
〒105-8511 東京都港区芝公園1-5-25
TEL：03-3578-2945
FAX：03-3578-2947

メール
mail@jcp-minatokugidan.gr.jp
ホームページ
http://www.jcp-minatokugidan.gr.jp



